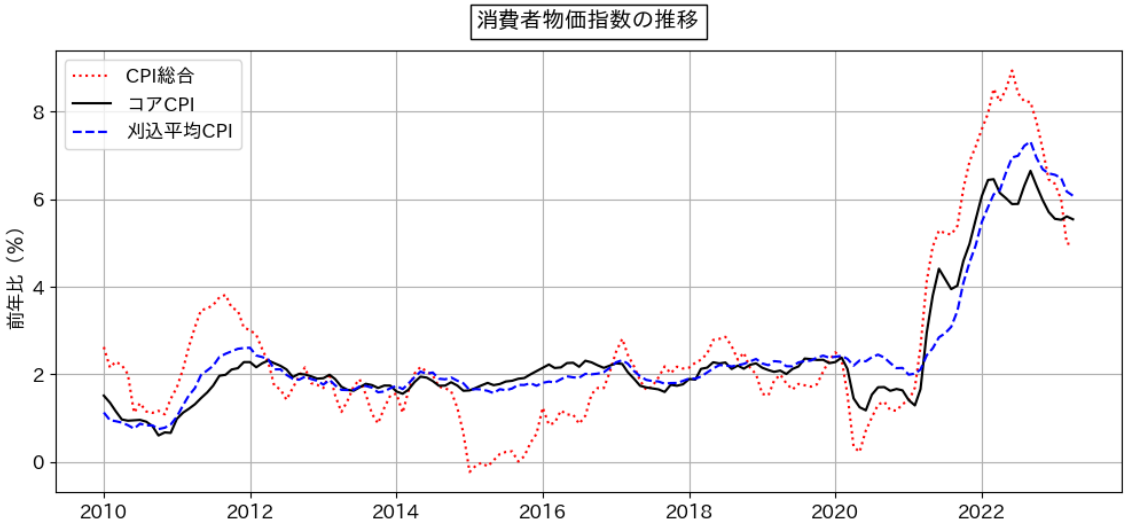
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

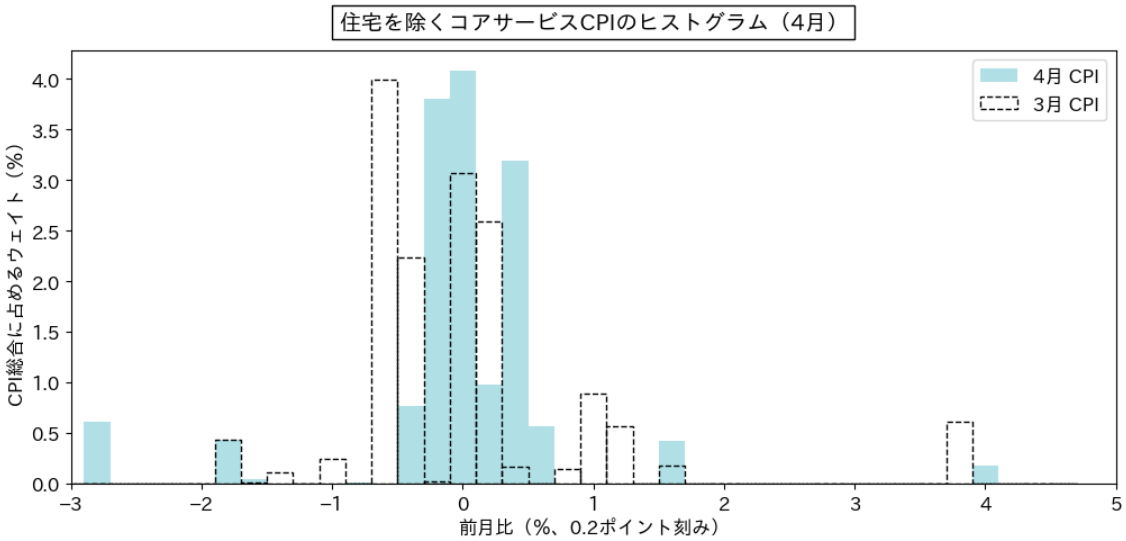
（米国）明確な鈍化傾向が確認できない CPI

4 月の消費者物価指数（CPI）を確認すると、エネルギー価格が 3 か月ぶりに前月比 0.6%と上昇したことから、総合は再び加速し同 0.4%となったものの、前年比では 4.9%と鈍化傾向が継続している。食料とエネルギーを除くコアは前月比 0.4%と前月比では変化がなく、前年比では 5.5%と依然として高い水準が続いている。また、住宅費の伸びは前月比 0.4%と 3 か月連続で鈍化したものの、前年比では 8.1%とやはり高止まりしている。



（出典）米労働統計局、FRED

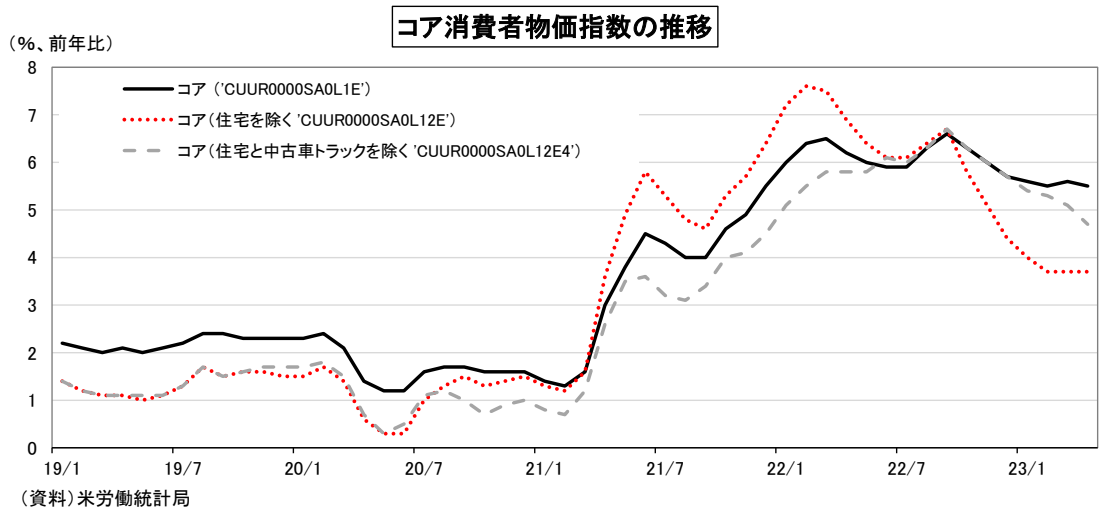
サービスセクターのインフレ率を考える上で注目される「住宅を除くコア・サービス」に該当する各項目について、前月比でのインフレ率の分布を確認すると、4 月は 3 月からあまり変化がなかったといえる。



（出典）米労働統計局 （注）Indent Level = 5。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

また、コア消費者物価指数から様々な区分を除いた、いわゆるスーパーコアを前年比でみると、住宅を除く区分では 2 か月連続で前年比 3.7%となった。住宅と中古車・トラックを除く区分は同 4.7%と高いものの、鈍化傾向が維持されている。



全体としてみると、4 月の CPI からはインフレ率が頭打ちになっていることは確認できるものの、FRB が目標とする（PCE デフレーターで測って）前年比 2%へ鈍化していると、確信できる内容とはいえないだろう。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます https://www.nochuri.co.jp/